



運動するためにコクライク！！ ～歩行空間と低未利用地の改革提案～



全国と北九州市民の運動・健康課題

小倉駅周辺の特徴・課題

生活習慣病・・・

全国よりも生活習慣病の割合が高く、中でも肥満が要因であり、ほとんどの年代で男性の肥満率が20%を超えている。最も肥満率が高いのは40代男性に見られる。

図①

低未利用地・・・

小倉駅の北側には公共施設の大規模な駐車場があることや駅の南側には商店街やその周辺のエリアには、時間貸し駐車場が点在している。また、駐車場の数約145箇所存在する。

図⑤
赤色のエリア

全国の子供の外遊び・・・

子どもを持つ保護者に「子供が外遊びをする回数が減ったと感じるか？」というアンケートを389人に実施したところ約86.3%の保護者が「はい」と答えた。

図②

歩行空間・・・

小倉駅周辺にはペDESTリアンデッキ、広い歩行空間が存在しているが歩行者や利用者の数が少ない。また、ベンチが少なく休む空間があまり存在しない。

写真①

健康年齢・・・

北九州市の平均寿命は年々増加しており、令和4年度の調査では女性は0.25年上回り、男性は0.74年まで近づいた。同調査でも健康年齢を増加させる要因として運動の必要性が記述されていた。

図③④

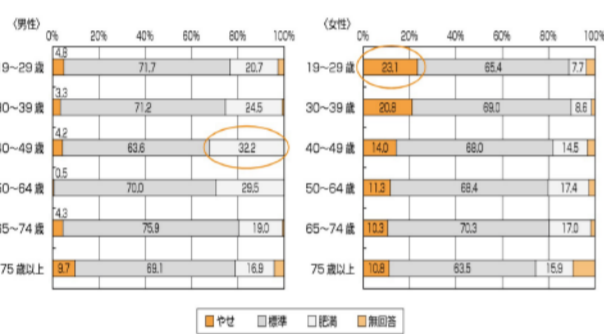
公園・・・

小倉駅周辺の公園の特徴として、ボール遊びだけでなくスケートボード遊びも禁止されている。

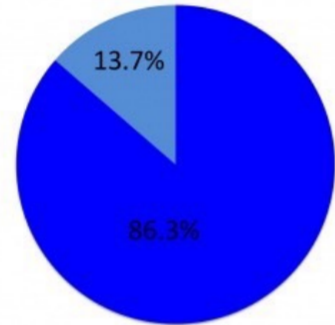
写真②

データ・写真

図①【出典】H28年度北九州市健康づくり実態調査



図②【引用】一般社団法人YBP PROJECT



図③【出典】令和4年度北九州市健康づくり及び食育に関する実態調査



図④【出典】令和4年度北九州市健康づくり及び食育に関する実態調査



写真①

2023/09/17(日)18時
小倉駅前
ペDESTリアンデッキ



図⑤

【引用】GoogleMap



写真② 勝山公園



スポーツ・健康まちづくり方向性

北九州市の公園では禁止事項が多く自由に遊ぶことができず、外で遊ぶ子供が減少してきている。北九州市の歩行空間は、多く存在しているにも関わらず、歩くだけの空間になっており、ベンチのような休む空間が少ない。また、運動をしているという意識がない。そこで、歩行空間+低未利用地を使ってスポーツを行うことで、健康課題にもある生活習慣病の解決や健康寿命の増進の課題解決にも活用できると考える。

スポーツ・健康まちづくり該当項目

- 2 スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- 3 自然と身体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換
- 4 その他、スポーツを通じて地域の諸課題の解決を目指す取組

～提案内容～

ぱーくing

低未利用地(駐車場)を利用し多様な世代がスポーツをできる空間の提供

詳細：アスファルトがあるため、地面が土や芝生が多い一般的な公園とは違い、バスケットボールなどのフィールドとして最適な環境の提供。竹馬や一輪車などの普段体験できないような遊びをすることもできる。また、提供する遊び場は固定ではなく多様に立地する時間貸し駐車場を活用して、臨機応変に様々な場所で遊び場を提供できる。

効果：普段の公園では行うことができない遊びや駐車場の特徴を活かすことで、子供が外でも遊ぶようになり、運動能力上昇に繋がる。

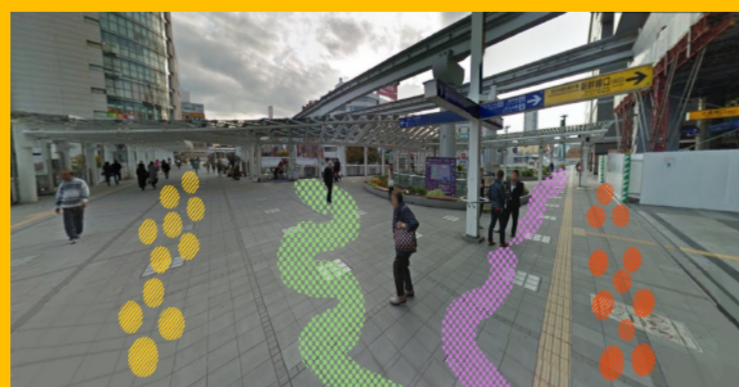


ちょいスポ

歩行空間を楽しく
歩いてもらうための政策

詳細：けんけんば、うねうね道など、つい歩きたくなるようなデザイン。

効果：仕事が原因でスポーツに取り組めない人が多くいるため、仕事の出勤や帰宅途中でも行えるようにすることで大人の人にも取り組んでもらうことができる。



シェアチェアー

商店街のお店の店先に椅子を置き
休むことのできる取り組み

詳細：商店街のお店に一脚、設置してもらうことで来街者が自由に座って休憩できる取り組み

効果：休める環境を作ることにより来街者の歩行距離を伸ばすことができる。また、各個店のマイバブリックな取り組みであることから気軽に素早く実践することが可能。さらに、来街者が休憩するだけでなく商店主とのコミュニケーションの環境づくりもできる。



まとめ

これらの3つの取り組みを行うことで、低未利用地・歩行空間・公園の課題を解決することができ、楽しく気軽に運動ができる場を作ることができる。その結果、2次的効果で健康面の健康寿命や生活習慣病などの解決につながると考えられる。また、楽しいまちを作ることによって子供達のシビックプライド上昇やコミュニティの形成の手助けができる。